

がんと生きる

第4部 シニア世代

新たにがんになる患者のうち65歳以上が占める割合は年々増え、いま70%を超えています。しかも、年齢を重ねれば重ねるほど、がんになる可能性は高くなります。シリーズ「がんと生きる」の第4部では、シニア世代の患者の現状や課題を探ります。1回目は、がんを何度も乗り越えて生きる岩見沢市の男性の物語。

① 何度も乗り越えて

がんの闘病が度重なり、体調不良のため創業85年の老舗「時計宝石の松重」を6月末で閉めたばかり。店舗の片付けをしている7月半ばまでの約1ヶ月、岩見沢市の中心商店街にある店舗に社長の松重晴彦さん(67)を訪ねた。

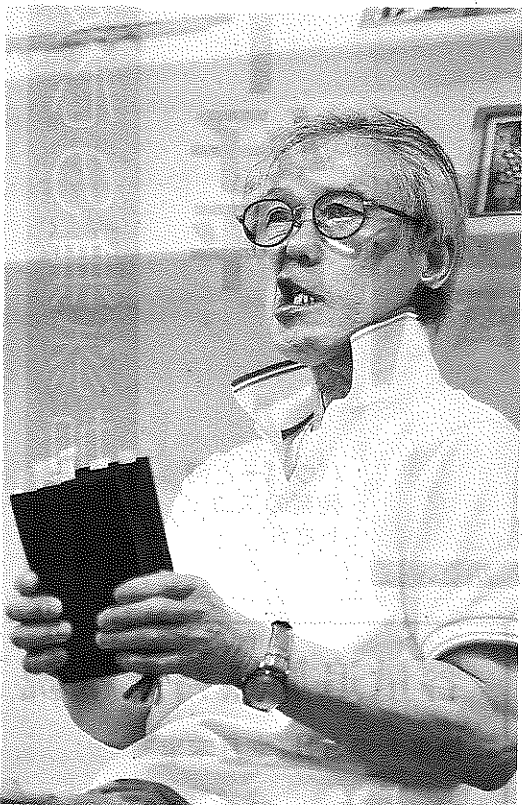
「さっさと腰を、俺も30代の頃は何度もやっただけ、でももうすっかりいじや。腰痛のためヨロヨロと歩く失礼をわび、初対面のあいさつをする。そう快活に言われた。「闘病」「体調悪化」「閉店」から連想していたイメージとは180度違う人だった。

がんの取材のはずが、しばらくは腰痛の治療談議に。18年間にわたり4度のがんを闘い続けてきた松重さんは、パワー全開で語り、ひと回り年下の記者の方が、腰がいかれて、よほどしほぐれてきた。

入院日誌7冊

どうして、そんなに明るくいられるのか、聞いてみると、「がんごときで、なめられて、立ち止まっていられない」と、強い口調が返ってきた。

やりたいこと 闘病の力に



松重晴彦さんの「4度のがん」などの闘病歴

- ① 肺がん 49歳の2002年7月19日から2カ月間入院、手術。その後、2カ月間で30回の通院放射線治療
- ② 脾臓(ひそう)に転移 50歳の03年11月26日から3カ月間入院、手術
- ③ 耳下腺がん 61歳の14年12月16日から3カ月間入院、手術、放射線治療
- ④ 食道がん 65歳の18年10月19日に告知、19年1月14日入院、15日手術、22日退院。食道狭窄(きょうさく)で3月15日に再入院、治療。胃ろう設置して3カ月後に退院。食道狭窄治療のため9月19日に再入院、1カ月後に退院。胃ろう不具合で20年2月6日に再入院、2カ月後に退院。
- ⑤ 十二指腸潰瘍 66歳の19年12月21日から1カ月間の入院、手術

松重さんは2002年、49歳のときの肺がんが始まり、脾臓への転移。さらに耳下腺がん、食道がん。昨年までは十二指腸潰瘍の手術もした。表参照。食道がんでは入院を繰り返した昨年2800日間も入院した。そんな日々を「入院日誌」として、7冊の手帳に記録

してきた。熱が上がったり下がったりが気になったときは、1日の体温の推移を毎日グラフにするなど、疑問を放置せず緻密に記録している。

北海道新聞は、道民の命を守り、患者を支える、「がんを防ごう」キャンペーンに取り組んでいます。米どころ岩見沢の魅力を発信する「ゆるぎなく百餅まつり」には、スタートした1983年から実行委員としてかかわり、98年から10年続けた岩見沢ミュージックフェスは事務局を担当。今でも岩見沢4条通り商店街振興組理事長など、いくつもの公職に就いている。

入院すると見舞いに来た友達が「いつ出てこられる？ ライフやるから」と言う。「退院したら祭りがあんな、起業塾だ、バンドだ、と思うと、うかうかしてられない」ことも活力の源となってきた。

積極治療求め

松重さんは、がんで父親や姉を亡くし、今も闘病中のきょうだいが2人いる。

闘病も商売も音楽もパワー全開で取り組む松重晴彦さん。手にする「入院日誌」には、がんとの闘いが詳細につづられている(中村祐子撮影)

「まず狭窄を治せる病院を探そう。そして完璧に治った、また商売をしたい。5坪くらいでコーヒーしか出さない喫茶店をやりたい。好きな曲をかけて、宝石のメンテナンスをするんだ」。生きがいを賣く、衰えめ意欲を口にした。(編集委員 石原宏治)

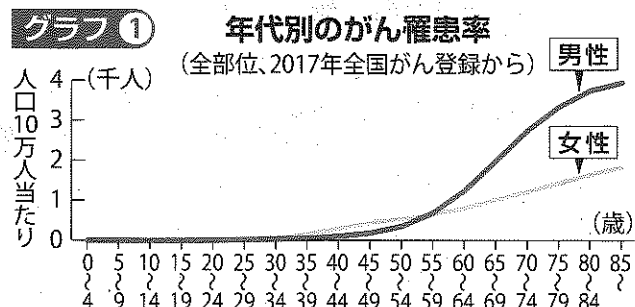
重複がん 高齢で増加

がんは年を取るほどなりやすい。グラフ①は、人口10万人当たりのがん罹患率(2017年)だ。なぜ年を取るとがんになるリスクが高くなるのか。

や紫外線など有害な環境。後者は特定のがんになりやすい遺伝的な体質だ。



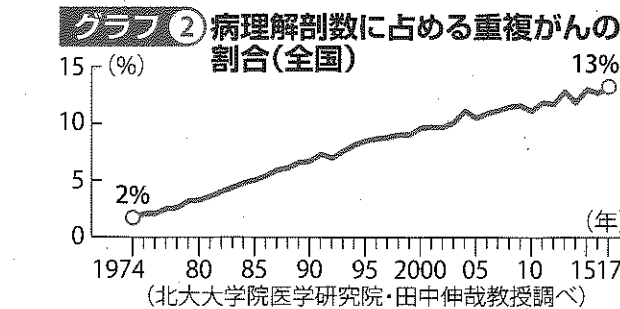
田中伸哉教授



北大大学院 田中教授調査

75~89歳 最も多く

北大大学院医学研究院の田中伸哉教授(55)は腫瘍病理学は「年齢を重ねるとどうしても遺伝子の傷の蓄積が多くなる。その結果、がんになりやすくなる」という。



田中教授は、病死した人の死因や治療を医学的に検証する病理解剖の全国集計から、重複がん(罹患歴も含む)がどのくらいいるか人数を調べた。その結果、重複がんが最も多い世代は75~89歳(3万2千人)、次いで65~74歳(2万8千人)といずれも高齢者だった。解剖数に占める重複がんの割合は年々増えており、74年には2%だったが、17年には13%になっていた。グラフ②参照。

(編集委員 岩本進)